# 平成28年度入学生対象

別記様式1

# 主専攻プログラム詳述書

開設学部(学科)名[医学部(保健学科) 看護学専攻]

プログラムの名称 (和文) 看護学プログラム (英文) (英文)

 取得できる学位 学士(看護学)

### 2. 概要

本プログラムは、幅広く深い教養を基盤に、豊かな人間性と高い倫理観を養い、専門職となるための基礎的知識と技能及び態度を修得し、課題発見・解決力と協働力を備えた、社会の人々に信頼される看護実践者を育てることを目指している。さらに科学的思考力と創造力に富む、将来の看護学の発展に寄与できる看護学研究者を育成することを目指している。

- 3. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針・プログラムの到達目標)
- ○本プログラムは、次の到達目標の達成を目指している。
  - 1) 看護の基盤となる人間・健康・環境・看護実践理論を理解し、必要な知識を習得する。
  - 2) 援助的関係を形成するために必要な能力を習得する。
  - 3) 看護実践において科学的に判断し、計画的に実施する能力を習得する。
  - 4) 看護実践において生命や人の尊厳を重視し、人権を擁護する倫理的判断能力を習得する。
  - 5) 看護職者として、特定の健康課題に対応する実践能力を習得する。
- 6) 他職種と連携・協働し、保健医療福祉組織における看護職者としての役割を果たす実践基礎能力を習得する。
  - 7) 看護学の発展に寄与する専門職者として研鑽し続ける基本能力を習得する。
- 4. カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

本プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、 実践する。

第1ステップ:1年次で、「豊かな人間性と幅広い教養、専門科目を支える教養科目」「人間の心身の機能に関する専門基礎科目」「看護実践の基礎となる専門科目」を履修し、複眼的な視野で広範な教養を育むとともに、健康と看護について深く探求するための基礎的知識を習得する。

第2ステップ:2年次に、「疾病の予防、発症、治癒に関する専門基礎および専門科目」「健康と環境に関する専門科目」「看護基礎技術に関する専門科目」「ヘルスケアシステムに関する専門科目」の科目群を中心に学習を進め、看護学に関する専門知識を深める。

第3ステップ:3年次前期に、「個人と家族、地域の健康問題と看護に関する専門科目」を履修し、看護実践者に必要な基礎的能力を育成する。

第4ステップ:3年次後期と4年次前期で、「看護実践上の判断能力を習得するための臨地実習」を履修し、看護実践者に必要な基礎的能力を育成する。また、4年次後期では、「医療安全と看護倫理」「看護教育学概説」「卒業研究」を通して、より包括的に看護学を考究し、問題の発見と解決に向けた探求の基本姿勢を育成する。

卒業時には、看護実践と看護研究に必要な5つの総合的能力(生命・看護倫理に対する判断力、コミュニケーション

能力,解析・分析能力,ディスカッション能力,チームの一員として協働する能力と態度)を備え,広く社会に貢献できる人材を育成する。

5. 開始時期 · 受入条件

1年次より開始。

### 6. 取得可能な資格

看護師国家試験受験資格

副専攻科目(保健師コース)を選択した場合,保健師国家試験受験資格

副専攻科目(助産学コース)を選択した場合,助産師国家試験受験資格

副専攻科目(養護教諭コース)を選択した場合,養護教諭一種免許状

### 7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。(履修表を添付する。)

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

## 8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で,加重値を加味し算出した評価基準値に基づき,入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」,「優秀(Very Good)」,「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S (秀:90点以上)	4
A(優:80~89点)	3
B (良:70~79点)	2
C (可:60~69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00~4.00
優秀(Very Good)	2.00~2.99
良好(Good)	1.00~1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

### 9. 卒業論文(卒業研究)(位置づけ,配属方法,時期等)

位置付け:看護に関して追求しようとする課題を明確にし、仮説もしくは独自の構想をデータや資料によって実証または記述する過程を踏むことを通して、科学的探求の基本的なプロセスを理解し、論文作成の基本的技術を習得する。

配属方法:学生が、自ら目指す研究テーマを考え、自ら指導教員を選ぶ。

指導教員には,看護学専攻教員があたる。なお,他専攻(作業療法学,理学療法学)教員を 指導教員として選択することも可能である。

時期等:4年次

### 10. 責任体制

PDCA責任体制(計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action))

看護学専攻会議、保健学科会議、医学部教授会においてその構成員により実施している。

### 教養教育科目履修基準表

### 医学部保健学科看護学専攻

	-回7	*链子	科看護	子导以							履修	年	次(	(注1)		
区分		科	· 目 [	区 分	要修得単位数		単位数	履修区分	1	年次	2年	<b>手次</b>	3 年	F次	4 £	<b>手</b> 次
					十四级				前	後	前	後	前	後	前	後
	教	教養さ	<b></b> きミ		2	教養ゼミ	2	必 値	§ 0							
	養コ	平	和	科目	2		2	選択必修	r,		0					
	ア科目	パッ	ケー	ジ別科目	6	選択したパッケージから	各2	選択必修	§ 0	0						
				コミュニ ケーション	2	コミュニケーション基礎 I	1	- 必 値								
				基礎	2	コミュニケーション基礎Ⅱ	1	- 必 値		0						
				コミュニ		コミュニケーションIA	1	S/ 1/	. 0							
		f-al		ケーション I	2	コミュニケーション I B	1	- 必 値								
		外	英語	コミュニケーション	2	コミュニケーションⅡA	1	- 必 値	c	0						
教	共	玉	(注2)	I	2	コミュニケーションⅡB	1	北 16	>	0						
		語				コミュニケーションⅢA	1				0	0				
養	通	科		コミュニ ケーション	2	コミュニケーションⅢB	1	選択必修	ķ		0	0				
教		目				コミュニケーションⅢC	1				0	0				
育	科					上記3科目のうちから2科目										
科	目		初修外国 (ドイツ	語 フランス	(0)	ベーシック外国語Iから2科目	1	自由選抜	0							
			語,中国 言語選択	語のうちから1	(0)	ベーシック外国語Ⅱから2科目	1	日田選が		0						
			in 41	目 (注3)		情報活用基礎	2	'라타마 <i>'아 IV</i>	0							
		情報	収 作	日(任3)	2	情報活用演習	2	選択必修		0						
		領	域	科 目	(0)	すべての領域から	1又は2	自由選択	3 0	0						
		健 康	スポ	ーツ科目	(0)		1又は2	自由選抜	0 5	0						
					2	医療従事者のための心理学	2	必修		0						
					2	統計学	2	選択必修	§	0						
		基	盤和	科 目		数学基礎概論	2	10,712	0							
					0	初修物理学	2	(注5)	0							
					0	初修生物学	2	(注5)	0							шЦ
	必有	修・道	選択 必	修科目小計	24											
計	⊢		と 択 利		16	(注6)										
	i d	教 養	教育科	斗 目 合 計	40											

- 注1: ○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により開設期が異なる場合があるので、学生便覧の教養教育開設授業科目一覧で確認すること。
- 注2: 短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「オンライン英語演習A」及び「オンライン英語演習B」: 各1単位 (同一科目を重複して単位を修得することは不可) の履修により修得した単位を, 卒業に必要な英語の単位 (8単位) に代えることが可能である。また, 外国語技能検定試験, 語学研修による単位認定制度もある。詳細は, 学生便覧に掲載の教養教育の英語
- 注3: 1年次前期開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得出来なかった場合のみ、後期開設の「情報活用演習」を履修することができる。
- 「医療従事者のための心理学」の単位を修得できなかった場合のみ、「心理学A」又は「心理学B」の履修により修得した単位を、卒業に必要な単位(2単位)に算入することが可能である。
- 注5: 「初修物理学」, 「初修生物学」, の単位を修得すべき者は, 保健学科において指定する。ただし, 卒業要件単位には含まない。
- 注6: 自由選択科目は、初修外国語、領域科目、健康スポーツ科目、基盤科目の中から合計16単位以上を修得すること。なお、領域科目では、人文科学領域の「倫理学」並びに社会科学領域の科目を修得することが望ましい。ただし、6単位を超えて修得したパッケージ別科目については、4単位までを自由選択科目に含めることができる。
- (注) 養護教諭一種免許状を取得しようとする者は、領域科目の「日本国憲法」 2 単位、及び健康スポーツ科目の「健康スポーツ科学」、「スポーツ実習 A」 又は「スポーツ実習 B」 のうちから 2 単位を修得すること。

医学部保健学科看護学専攻

科目	極 类 到 口	出行业	屋板料点	1 -	E VID	0.5	履修	年 次	= V/rz	4 5-	: \/r
区	授業科目	単位数	履修指定		F次		三次 ///		三次 //		次
分	1 88 3% 14 3%		\1.65c	前	後	前	後	前	後	前	後
	人間発達学	2	必修	2							
	人体構造学 I	1	必修		1						
	人体構造学Ⅱ	1	必修			1					
	生理機能学 I	1	必修		1						
	生理機能学Ⅱ	1	必修			(1)					
専	微生物学・免疫学	2	必修			2					
門	基礎医学演習	2	必修				2				
基						<u></u>	(a)	-			
礎	栄養学	2	必修			2					
科	病理学	2	必修			2					
目	臨床薬理学	2	必修			2					
	臨床生化学	2	選択			2					
	臨床病態学	2	選択			2					
	保健英語	1	選択			1					
	Introduction to Epidemiology and Population Sciences	2	選択			-	2				
		2	選択					2			
	Global Health and Current Public Health Issues										
	成人健康障害看護	2	必修			2					
	老年健康障害看護	2	必修				2				
	小児健康障害看護	2	必修		<u> </u>	<u> </u>	2	<u> </u>	<u></u>	<u> </u>	L
	周産期健康障害看護	2	必修				2				
	精神健康障害看護	2	必修	1		1	İ	2		İ	
	健康管理論	2	必修			2			<del>                                     </del>	<del>                                     </del>	
		2	必修			2		2			
	疫学 4.今短知觉					<del>                                     </del>	<u></u>	( W	<del>                                     </del>	<del>                                     </del>	<u> </u>
	社会福祉学	2	必修			1	2	<u> </u>	1	1	
	看護実践学原論	2	必修	2							
	看護技術学・基礎演習	2	必修			2					
	看護技術学・応用演習	2	必修				2				
	看護診断方法論演習	1	必修				(1)				
	看護管理学概論	2	必修							2	
	医療安全と看護倫理	1	必修				(1)				
							(I)				G
	国際健康看護論	1	必修								(1
	基礎看護実習I	1	必修	1							
	基礎看護実習Ⅱ	1	必修			1					
	基礎看護実習Ⅲ	2	必修				2				
	総合実習	2	必修							2	
	看護教育学概説	1	選択								1
	がん看護学	1	選択						1		_
	家族看護学		選択						1		
		1							1		
	カウンセリング演習	1	選択					1			
専	成人看護学概論	2	必修			2					
	成人看護方法演習・慢性期	1	必修					1			
門	成人看護方法演習・急性期	2	必修					2			
利	老年看護学概論	2	必修	İ		2	İ	i -	1	İ	
什	老年看護方法演習	1	必修					(1)			
B			必修			2		<u> </u>	<del>                                     </del>	<del>                                     </del>	<del>                                     </del>
П	小児看護学概論	2			-	(4)			1	1	-
	小児看護方法演習	1	必修			<u> </u>		1	-	<u> </u>	ļ
	母性看護学概論	2	必修		2						<u> </u>
	母性看護方法演習	1	必修		<u> </u>	<u> </u>	1	<u> </u>	<u></u>	<u> </u>	L
	精神看護学概論	2	必修				2				
	精神看護方法演習	1	必修					(1)			
	地域看護学概論	2	必修			<b>†</b>	2		<del>                                     </del>	<u> </u>	
				<del>                                     </del>		<del>                                     </del>	<i>\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\</i>	<u></u>	<del>                                     </del>	<del>                                     </del>	<u> </u>
	地域看護学Ⅰ	2	必修		-	-		2	-	-	-
	地域看護学Ⅱ	2	必修	ļ		1		<u> </u>	2		
	地域看護学演習	1	必修							1	
	地域看護実習	2	必修							2	
	成人看護学実習(急性期)	2	必修						2		
	成人看護学実習(慢性期)	2	必修	İ		1	İ	i –		2	
	成人看護学実習(回復期・緩和ケア)	2	必修			<del>                                     </del>			2		
				-		<del>                                     </del>		-	2	<del>                                     </del>	-
	老年看護学実習	2	必修			<u> </u>					
	小児看護学実習	3	必修						3		<u> </u>
	母性看護学実習	2	必修			<u></u>			2	<u></u>	<u> </u>
	精神看護学実習	2	必修						2		
	卒業研究	4	必修							(	1)
	保健情報学演習	1	選択					1		<u> </u>	
	保健政策論	2	選択			<del>                                     </del>		<u> </u>	2	<del>                                     </del>	
	M C X X III	4	選択		<b>_</b>	<del>                                     </del>	1	<b>—</b>	4		$\vdash$

### 医学部保健学科看護学専攻

IZ,	科							履修	年 次			
区分	目区	授 業 科 目	単位数	履修指定		F次	2年			三次		次
),	分				前	後	前	後	前	後	前	後
		公衆衛生看護学 I	2	選択					2			
		公衆衛生看護学Ⅱ	2	選択					2			
		公衆衛生看護管理	2	選択								2
		公衆衛生看護実習	3	選択							3	
		助産学概論	2	選択					2			
		母子看護論	2	選択					2			
		助産診断学	4	選択						4		
	専品	助産技術学	2	選択							2	
専	専門科目	助産疾病論	2	選択							2	
門教育	目	助産方法論	2	選択							2	
教		地域母子保健	1	選択							1	
育		助産管理学	2	選択							2	
		助産学実習	11	選択								11
		学校保健概論	1	選択			1					
		学校保健演習	2	選択						2		
	鄟	月基礎科目 開設単位数 必修:16単位	選択	: 9単位	要履修単	位数 必	修:16単	位				
	鄟	月科目 開設単位数 必修:78単位	選択	: 48単位	要履修	単位数 🥠	込修:78 <sup>j</sup>	单位				
		専門教育科目計	94									
		卒業要件単位数	134									

- 注1: 実習科目の履修は,所定の授業科目の単位を取得していない場合,許可されないことがある。
- 注2: 保健師国家試験を受けようとする者は、専門基礎科目及び専門科目に掲げる必修科目のほか、次の選択科目を全て履修しなければならない。保健情報学演習、保健政策論、環境生態学演習、公衆衛生看護学 $\Pi$ 、公衆衛生看護管理、公衆衛生看護客理。
- 注3: 助産師国家試験を受けようとする者は、専門基礎科目及び専門科目に掲げる必修科目のほか、次の選択科目を全て履修しなければならない。助産学 概論、助産診断学、母子看護論、助産技術学、助産疾病論、助産方法論、地域母子保健、助産管理学、助産学実習。 注4: 養護教諭の免許状を取得しようとする者は、課程10「養護教諭免許取得に必要な履修科目(保健学科看護学専攻)」を参照のこと。

# 保健師国家試験受験資格取得に必要な履修科目(保健学科看護学専攻)

区	科							履修	年 次			
分	区	授業科目	単位数	履修指定	1	F次	2年	次	3年	三次	4年	次
),	分				前	後	前	後	前	後	前	後
		保健情報学演習	1	選択					1			
	١.	保健政策論	2	選択						2		
専明	専	環境生態学演習	1	選択				1				
教	科	公衆衛生看護学 I	2	選択					2			
育	目	公衆衛生看護学Ⅱ	2	選択					2			
''		公衆衛生看護管理	2	選択								2
		公衆衛生看護実習	3	選択							3	

保健学科看護学専攻学生で、保健師国家試験受験資格を取得しようとする者は、教育課程に掲げた履修基準(教養教育科目、専門教育科目)の必修 科目を含めて、上記科目を必ず履修しなければならない。

### 助産師国家試験受験資格取得に必要な履修科目(保健学科看護学専攻)

区	科							履修	年 次			
分	目区	授業科目	単位数	履修指定		三次	2年		3年		4年	
),	分				前	後	前	後	前	後	前	後
		助産学概論	2	選択					2			
		母子看護論	2	選択					2			
		助産診断学	4	選択						4		
専	専明	助産技術学	2	選択							2	
教	科	助産疾病論	2	選択							2	
育	目	助産方法論	2	選択							2	
		地域母子保健	1	選択							1	
		助産管理学	2	選択	·	·			·		2	
		助産学実習	11	選択								11

注 保健学科看護学専攻学生で、助産師国家試験受験資格を取得しようとする者は、教育課程に掲げた履修基準(教養教育科目、専門教育科目)の必修 科目を含めて、上記科目を必ず履修しなければならない。

# 養護教諭一種免許取得に必要な履修科目(保健学科看護学専攻)

	科目区分	授業科目	単位数	必要 単位数	履修セメスター	開講キャンパス
	外国語科目(英語)	コミュニケーション Ⅱ A	1	1	2セメ	
教養	外国語科目(英語)	コミュニケーション <b>I</b> I B	1	1	2 L /	東広島
教育	情報科目	情報活用基礎 (又は情報活用演習)	2	2	1セメ (2セメ)	
科目	領域科目	日本国憲法	2	2	1又は2セメ	東広島又は東千田(後期)
	健康スポーツ 科 目		2	2	1又は2セメ	東広島
		教職入門	2	2		奇数年は霞, 偶数年は東千田
		教育の思想と原理	2	2		奇数年は霞, 偶数年は東千田
		児童・青年期発達論	2	2		奇数年は東千田, 偶数年は霞
		教育と社会・制度	2	2		奇数年は東千田, 偶数年は霞
		教育課程論	2	2	3・4又は5・6セメ	奇数年は東千田, 偶数年は霞
	教職に関する	教育方法•技術論	2	2	3.4 人(42).0 万人	奇数年は霞, 偶数年は東千田
専	専門科目	道徳教育指導法	2	2		奇数年に霞で開講
門		特別活動指導法	2	2		偶数年に東千田で開講
教育		生徒•進路指導論	2	2		奇数年は霞,偶数年は東千田
科目		教育相談	2	2		奇数年は東千田, 偶数年は霞
		養護実習	5	5	7・8セメ	広島大学の附属学校で実習
		教職実践演習 (注)	2	2	8セメ	霞(医学部)で開講
	専門基礎科目	臨床薬理学	2	2	3セメ	霞(医学部)で開講
	予	微生物学·免疫学	2	2	3セメ	霞(医学部)で開講
		公衆衛生看護学Ⅱ	2	2	5セメ	霞(医学部)で開講
	専門科目	学校保健概論	1	1	3セメ	霞(医学部)で開講
		学校保健演習	2	2	6セメ	霞(医学部)で開講

- 1. 保健学科看護学専攻学生で,養護教諭一種免許単位を取得しようとする者は,教育課程に掲げた履修基準(教養教育科目,専門教育科目)の必修科目を含めて,上記科目を必ず履修しなければならない。
- 2. 「教職に関する科目」については、霞キャンパスでは医学部保健学科生用の昼間集中講義で開講し、東千田キャンパスでは法学部及び経済学部夜間主コース生用の夜間集中講義で開講する。
- (注) 教職実践演習(養護教諭)(8セメスター集中授業)を履修するためには、7セメスターに養護実習の履修手続を済ませ、教職実践演習の開始までに養護実習の単位を修得又は修得見込みであること。 7セメスター終了時点で養護実習の単位が修得できておらず、8セメスターで教職実践演習と並行して養護実習を履修することとなった場合、教職実践演習の単位は、養護実習の単位が認定されることを条件として認定する。

看護プログラムにおける学習の成果 評価項目と評価基準との関係

<u>≓</u>	平価 女 H C 計画 掛 H C の   選 法			
	学習の成果		評価基準	
	評価項目	極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
	(1) 一般教養に関する知識・理解	各科目の到達目標に基づいて行う試験において,他の項目と関連付けて応用的な説明ができる。	各科目の到達目標に基づいて行う試験において, 他の項目と関連付けて説明ができる。	各科目の到達目標に基づいて行う試験において, 基本的な説明 ができる。
	(2) に関する知識・理解 に関する知識・理解			
知識・	(3) 看護実践理論, 看護の基本的技術と態度に関する知識・理			
車解	(4) 個人と家族, 地域の健康問題と看護に関する知識・理解	看護学教育プログラムの到達目標に基づいて行う各科目の試験 において、他の項目と関連づけて応用的な説明ができる。	看護学教育プログラムの到達目標に基づいて行う各科目の試験 において、他の項目と関連づけて説明ができる。	看護学教育プログラムの到達目標に基づいて行う各科目の試験 において、基本的な説明ができる。
	(5) 関する知識・理解 関する知識・理解			
	(6) 看護倫理に関する知識・理解			
	(1) 根拠に基づいた看護実践を計画する能力	●演習において、エビデンスに基づいた看護方法を対象の個別性を考慮して計画に応用できる。 ②演習において、基礎的知識を予習した上で、積極的かつ探求	演習において、エビデンスに基づいた標準的な看護方法を計 できる。 )演習において、積極的態度で臨み、学んだことを原理原則に	①落習において、標準的な看護方法を計画することができる。 ②演習において、積極的態度で臨み、学んだことを原理原則に 申えい、中国申キェールがある。
	(2) 対象の健康課題を根拠に基づいて査定する能力	展開することができる。 事象を客観的に評価・考察し、さ 観的に考えることができる。	sづいて応用することができる。 シレポート作成においては,事象を客観的に評価・考察するこ :ができる。	カン・スポロッションです。 ③レポート作成においては、事象を答顧的に記述することができる。
能力・技能	(3) 根拠に基づき計画した看護を適切に実践する能力	①降床・臨地において必要な看護実践技能を, 自立して, 安全かっ工権に実行することができる。 ②利用者の特性やコーズを終合的に捉え, 個別的な看護過程を展開することができる。 ③利用者に対する者 ③利用者に対する看護実践を評価し, 評価結果を別の利用者に対して活かすことができる。	<ul> <li>○ 臨床・臨地において必要な看護実践技能を、看護職者の助言のもとに、安全かつ正確に実行することができる。</li> <li>② 利用者の特性やニーズを総合的に捉え、標準的な看護を計画のうち一部は個別性を考慮して実施することができる。</li> <li>③ 利用者に対する看護実践を利用者の反応を踏まえて振り返ることができる。</li> </ul>	①臨床・臨地において必要な看護実践技能を, 看護職者の補助 のちとに、安全かつ正確に実行することができる。 ②利用者の特性とニーズを分析し,標準的な看護を計画するこ とができる。 ③自分の実践を客観的に振り返ることができる。
	対象の健康課題に応じた健康の保持増進,疾病や事故・傷 害の予防, 健康の回復にかかわる看護を実践する能力 *利用者: 看護実践の場における看護サービスの利用者。 患者, 相談者, 地域住民など包含する。	①利用者に関する看護過程ではエピデンスに基づいた看護方法 を, 計画に応用できる。 ②基本的な原理原則を含まえた上で, 利用者の顧別性を考慮して実践できる。。また, 常に採求的態度で臨み, 実践後には客職的評価し、計画の追加修正を行うことができる。 ③香護職者に助言を求め, ディスカッションすることができる。。	<ul><li>①利用者に関連したエピデンスに基づいた標準的な看護方法を 診別できる。</li><li>②基本的な原理原則をふまえ,利用者の個別性に配慮して実践できる。</li><li>③香護職者に助言を求めることができる。</li></ul>	①利用者に関連した標準的な看護方法を説明できる。 ②基本的な原理原則に基づいて実践できる。 ③看護職者に自分が計画した内容を伝えることができる。
黎	(1) 生命・看護倫理に対する判断力	①問題や課題に気づき、適切な対処行動がとれる。	<ul><li>①問題や課題について、分析することができる。</li></ul>	問題や課題について気づくことができる。課題の分析過程を知り, 課題の所在を知る方法を知っている。
合的な	(2) チームの一員として他者・多職種と連携し協働する能力と態度	各職種の役割を理解した上で,利用者のニーズ充足に必要な職種を考え,適切に働きかけることができる。	各職種の役割を理解した上で,適切に働きかけることができる。	チームの一員であることを認識して行動することができる。
R	(3) 研究成果の実践への活用力および自己研鑽力	自分の現状を的確に把握し, 専門職者として成長するための課 題に取り組むことができる。	自ら学ぶ姿勢を有し,向上心をもって行動できる。	問題に気づき,解決するための手段を考え,実践できる。

# 主事攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、専門教育を受けるための学問的基盤作りの役割を担い、自主的・自立的態度の尊重、情報収集力・分析力・批判力を基礎にした科学的思考力の養成、ものごとの本質と背景を広い視野から 洞察することのできる視座の確立、国際人として生きるにふさわしい語学力と平和に関する関心を強化し、幅広い知識を真に問題解決に役立つ知識体系へと統合するとともに、既成の枠を超えた学際的・総合的研究を開拓し推進

						1				1	T											1		T			ı	ı	T					ı				ı				T											1	T		T									T		_				
終日中の評価項 日の総加重権			100	001	001	001	100	001	001	001	001	001	100	100	001	001	001	001	001	001	001	001	001	001	001	100	001	001	001	001	100	001	001	001	001	001	001	100	001	100	100	001	001	001	001	001	001	001	001	001	001	001	001	001	100	001	001	001	001	001	100	001	100	001	100	001	001	001	100	001	001
		経験報	N KHI									Ĺ					İ											ı							İ	-								ı								ı	İ														1			I	-
	明 75gg	# 100 mm	20.00																																	0.0	0.0																														⊥			Ш	001
	総合的な力 (2) (2) (3) ゲームの一角と 研究的 3.1 して開催する他 び自己教育力 カと態度	PERM	Man	Ш								L																								-																															1			Ц	
	4 12	# H G	N WHI									L			1						1	1							1	L					1	GO	20												1												L					1	1			Ц	
	(1) 生命·脊護衛用 に対する物所 1 カ	発展機										L			1												1		L					1	1	-																						1									1			Ш	
	48	4840 4840										L			1						1	1							1	L					l	30	20												1									1			L	L				1	1			Ц	
	(4) 健康の保持側 選、総等の子 (所、健康の日後 このかなる実践	経験報目中の	N KIN									L			1						1						1		1					1	-	-			-					1			-		1			-   -														1	1			Ŀ	-
	新規 (E 7)	4114										L			1						1	1							1	L					8	6			6								90		1		8	8 8			8		1	99			L	8				1	1	8		8	8
	- 技能 (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)	14 E E	MAN IN	Ш	1				1			L			1						1		L				1		ļ					1	-	-	L		-						L		-	1	1			-   -			-			-		L						1	4			ď	-
	1-技能 指導 に実 カケ	##60 ##60	N RH	Ш	1	Ш			1	1	L	L			1		1	L	L	Ш	1	1	L	L	Ц		1	1	L	L					9	00	L	L	90	Ц			1	ļ	L	L	50				20	8 8		L	50		-	90	L	L	L	09			_	1	1	60		0	99
	(2) (2) (3) (4) (5) (6) (6) (7) (7) (8)	単解 評価項 目中の	16.19.20	Ш	1				1			L			1						1		L				1	1	-	-	-			-	-		L						-	-	_				-	-	1			***				1		L	-					1	4				Ш
	高い 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	AH P		Ш	1	Ц			4	1	1	L			4	1	1	L		Ш	1	1	L	L	Ц		4		9	90	50			20	99	L	1	60			4	20	20	65	2			-	+	20	4	1	L	60		4	20	1	L	L	50			Ц		1	1	L		80	Ш
無項	(1) 報報に振りき、 報酬を計画的 に決談する総 力の知識が顕っ	経典権	36.00.00	Ш	1	Ш			4	1	1	L			4	4	1	L			1	4	Ļ	L	Ц		4	4	-		-				-	1	1						-	-					4	-	4	1	ļ	***		4		1	1	Ļ				Ц	4	1	4	L			Ш
25	発展が			Ш	1	Ш			4	1	L	L			4	1	ļ	L	L	Ц	1	1	L	L			4	1	60	80	50			20	90	L	L	60				20	20	Q2	2	L		1	20	20	4	1	L	60			20	1	L	L	50	L				1	1	L		00	Ш
	(6) 全球論理公開 十七5年第・世界	報報日	20.	Ш	$\downarrow$				4	1	1	L			4	4	1	-	L	Н	ļ.	- -	-		-	-	-	1	-	ļ		-	-	4	+	-	-				-	1	-	1	-	-			4		4	$\downarrow$	-				1	-		-	L	L			-		4			4	Щ
	水布 未放 2	######################################	10.00	Ш	$\downarrow$				4	1	1	L			4	4	1	30	L	Н	0	20	20	20	20	20	-	01	24	L		20	20	4	1	L	20	L		20	20	1	00	707	20	20		20	1		1	1	20			20	1	00	20	20		L	20	20	20	20	92	2	20	4	Н
	(5) ・ルスケアシステムと発展設計 関大会びを観視 関大会びを観視 大学 関連の 対象 に対象 対象 に対象 は、対象 は、対象 は、対象 は、対象 は、対象 は、対象 は、対象 は、	神経和		Н	#	H			+	+	+	Ł	Н	4	4	+	+	-	L	Н	+	-	-		-	-	+	+	-	Ļ		-	-	4	+	+	-				-	4	-	-	-			-	+		+	+	-	L	_		+	-	-	-	-		-	1	-	- -	4	-	-	4	4
	名	# H H H	1.20		+				+	+	+	Ł			+	+	+	9	H		00	20 20	20	20	20	20	-	30	2	ŀ		·40	20	+	$\downarrow$	+	20	L		20	20	4	90	20	20	40		20	+		+	+	20	L	_	20	+	00	20	20	-	H	20	20	30	20	00	2	20	+	Н
	(4) 公司(3) 公司(3) 司司(3) 司司(3) 司司(3)	育者項目		Н	#	H			+	+	+	-	Н	4	4	+	+	ļ	L	Н	+		-		1	-	- 1	0 .	-	Ļ		Н	-	4	+	+	-				-	4	-	1	-	L			+		+	+	-	L	_		+	-	-	-	-		1	1	-		1	-	1	4	4
	(3) (3) (4) (4) (5) (5) (5) (6) (7) (7) (7) (8) (7) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8	#HP 0			+				+	+	+	20			+	+	+	+	H		00	20 20	20	20	20	20	20	30	2	ŀ			20	+	$\downarrow$	+	20	L		20	20	4	90	20	20	H		20	+		+	+	20	L	_	20	+	00	20	20	-	H	20	20	30	20	00	2	20	+	Н
	(30 (30 (30) (40) (40) (40) (40) (40) (40) (40) (4	H SKN	N N	Н	+				+	+	+	-			+	+	+	-	H	Н	+		-		-	-	-	1		┝		-	-	+	+	+	-			-	-	-			-	-		-	+		+	+	-	H		-	+		-	-	-	H	-	-	-		4		-	+	H
	( 1987年 - 19874 - 1987年 - 1987年 - 1987年 - 1987年 - 1987年 - 1987年 - 1987年 - 19874 - 1987年 - 1987年 - 1987年 - 1987年 - 1987年 - 1987年 - 1987年 - 19874 - 1987年 - 1987年 - 1987年 - 1987年 - 1987年 - 1987年 - 1987年 - 19874 - 19874 - 19874 - 19874 - 19874 - 19874 - 19874 - 19874 - 198	#11 + 0.0998	N. O.	Н	+				+	+	+	8			+	+	+	98	H	Н	- 8	8 8	8	33	30	8	-	8 8	8	H		-90	8	+	+	+	8			30	8	-	0.0	8	8	- 90	Н	8	+		+	+	98			8	+	00	8 8	8	H	H	30	30	8	8 8	30	1	30	+	$^{+}$
	(2) 心体の機能と構 報に置って機能 機体の 74次、発 所、計画に関す 心は関い関す	科目中 評価項 の好価 目中の	N N		+	Н		H	+	+	+	_	1 0	1 00	00	0 0	-		1 0	1 0	0 ,		_	-	1	-				H		Н	_	+	+	+	_	H		1	_	+	-		_	H	Н	_	+		+	+	-	H	+	-	+	-	-	_	H	H	1	1 (	_				1	+	+
	立門変形の	H MEN MAN		Н	+	H			+	+	+	9	01	01	2	2 !	2 2	+	01	21	2 6	61 6	- 6	2	21	6	6	- 6	-	$\vdash$		H	2	+	+	+	2	$\vdash$		23	6		é	-	2			6	+	_	+	+	2	H	-	6	+	· C	9 6	- 6	-	H	2	21	6	ā 6	9 6		2	+	Н
	(3) (2) (1) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	11年の 27条	N N O	0		0		0	0			H	Н	+	+	+	+	+	H	Н	+	+	H	H	H	+	+	+	H	+	Н	Н		+	+	+	+	H			+	+	+	+	+	H		+	+		+	+	$^{+}$	$\vdash$	$\dashv$	+	+	+	+	ł	+	H	Н	Н	+	+	+	+	Н	+	Н
		18	E X	× 10	x x x x x x x x x x x x x x x x x x x	10 × 3	N X A X	24.X 10	× .		24.X	_	×	×	×	χ.	,		×	×	х :	× ×		*	×	×	χ.	χ,		*	×	×	_	χ.				*	*	×	×	х.	х э			×	×	χ.	×	χ.	χ.			×	×	×	χ.	. ,		_	×	×	χ.	×	χ.	х 1	× ,	. *	χ.	× -	× 3
	THULLY		Ξ	34	13/1	8 1.2	1323	1321	5 :	1 10	13/1	=	55	8	22	8 3	- 4	- 5	3.6	35	E 3	5 5	- 5	5	8-6	8	84	5 2	- 2	5	4.6	2.4	8	=	5 3	2.0	. 6	2	6.4	9-F	9.6	9		2 2		7.4	8 t	5 1	4	945	6		- 5	25	9	5	5 5	9 44	- 2	9.0	7.4	7.	949	-0	5	5 2		T.	8	5 1	5 2
	2 m m		9.9	388.0	386.0	385.0	E G G	filth 26	0.0	3800	38.0	╌	0.0	0.48	0.0	9.0	0.0	0.0	9.0	0.0	0.0	90	9.0	9.9	0.0	0.0	9.0	2 3	200	0.0	65.60	N/A	W.	0.0	80	100	6.4	N/A	W.	施	施	施	40 0	487	Ŕ	480	操化	22	EA.	877	624	N 100	20	1/2	12	22	est.	1/4	10	W.	2	1/2	施	480	Ř	ik i	対対	施	(CA)	20 10	248
	38.75/81		00	04	9 95	00	0	0	00	4 0	91	**	-	-	-		0 0	-	01	04	00 0	00 0	01	00	01	04	01	20 0	0	00	-	04	-	-	- 0	0 00	01	-	01	00	01	4	00 0	9 0	-	00	п	00	-	00	01 0			-	00	00		0 0		01	-	00	-	00	-	00 0	9 09	00	00	_	20 10
	校徽科目名		教養ゼミ	平和科目	ペングーン本田	情報科目	領域科目	健康スポーツ科目		34.7.指现代基础 体生态	自由選択科目			人体構造学Ⅱ			M工物子・完成子 非確保令後期	医療安全と看護倫理	栄養学	<b>柳</b> 理学	個床業租拿	成人健康維持非護	小児健康除害者護	因童期健康障害看護	精神健康溶害者護	继承管理論	校学 41 6 1000 00	在設備化学	THE MAN TO A THE THE THE THE THE THE THE THE THE THE	看護技術学·応用演習	看護診断方法論演習	看護管理学概論	国際健康看護論	基礎看護実習	选模不課 头背 II 比战 希腊 北极 亚	2000年前後×10mm 総合批説	20日 2日 日 2日 日 3日 2日 3日 3日 3日 3日 3日 3日 3日 3日 3日 3日 3日 3日 3日	母性看護方法演習	母性看護华実習	助遊学振論	母子看護論	助棄診解华	助航政府平	別底水的圖	地域母子保健	助産管理学	助童华実習	成人看護学概論	成人指護方法(資質・慢性)別	成人看護方法演習·急性期	成人看護华実習(急性期)	成人有妻子头首(受住别) 改人看着父宝男(回省如,移和4字	小児看護学標論	小児看護方法演習	小児看護学実習	精神看護学概論	精神者襲方法演習			担城沿海 学工			保健情報学演習		環境生態学演習	公衆衛生者護学工	公衆衛生者護学日 公参衛生者護学祖	公衆衛生看護英習	老年看護学概論	老年	老年看護字英官 卒業研究
	# II E39		日粉集級養務	教養教育自		教養教育科目	教養教育科目	教養教育科目	松美松竹科目	II 44 H X2 at X2	教養教育科目	10/19/19/19/E		<b>地門教育科</b>			MCHI BANDESS EL	40円数常件目	<b>地种教育</b>	40円数官科目	40000000000000000000000000000000000000	ACT ROYALES EL	WP18XW611		联門教育科 11	46円数464円	40年10年11日	April 200 State H	MORE BY WEST ET	40円数常料日	40.980.06.0	<b>専門教育科目</b>	項門教育科 田	4679.80 W H	ACPLIENTED TO		40年数114年日		10年9年8年11日	40円数容符4日	46円数算移用	4679数1648日	April 80 YEAR III	ALCH BY WEST FI	10000000000000000000000000000000000000	専門教育科目			40年7月80日日	46円数常64日	10.000	AGH 86/1/65 EI	10000000000000000000000000000000000000	日 19.44.06 日	<b>电影软件</b> 目		46F138WF84 II			WF198W6411			40年8年8月		場門教育日	40mmを存む日	ACPLEX WAS ELL	40円数常料目	40円数常64日	日報基礎協能	専門教育計 14円数官計 14円数 14Da 1

看護プログラムカリキュラムマップ

評価項目 心身の機能と環境に基づく健 康 疾病の予防、発症、治癒に 関する知識・理解 看護実践理論、看護の基本的 技術と態度に関する知識・理解	靠	-	I	※ 無		***	-	
リ を露		14.48		20.00	華福	THE PERSON NAMED IN	福	34.40
ロ を離	Bij 240	後别	削船	[& 74]	開開	(友規	開網	後朔
ロ を歴	看護実践学原論(◎)	母性看護学概論(③)	人体構造学Ⅱ(◎)	社会福祉学(◎)	疫学(◎)	地域看護学Ⅱ(◎)	看護管理学概論(③)	国際健康看護論(◎)
<b>左</b> 靡	人間発達学(◎)	人体構造学Ⅰ(◎)	生理機能学Ⅱ(◎)	医療安全と看護倫理(◎)	精神健康障害看護(③)	保健政策論(△)	助産技術学(△)	公衆衛生看護管理(△)
	教養ゼミ(◎)	生理機能学 I(◎)	病理学(◎)	地域看護学概論(③)	地域看護学Ⅰ(◎)	助産診断学(△)	助産疾病論(△)	
	ペッケージ別科目(〇)	パッケージ別科目(〇)	微生物学·免疫学(③)	精神看護学概論(③)	公衆衛生看護学 I(△)		助産方法論(△)	
_	リミューケーション 勘鑑 I(◎)	コミューケーション基礎 I (◎)	臨床薬理学(◎)	老年健康障害看護(③)	公衆衛生看護学Ⅱ(△)		地域母子保健(△)	
	コミュニケーション I A(◎)	コミュニケーション II A(◎)	) 栄養学(③)	小児健康障害看護(③)	助産学概論(△)		助産管理学(△)	
_	コミュニケーション I B(◎)	コミュニケーション II B(◎)	(健康管理論(③)	周産期健康障害看護(③)	母子看護論(△)			
個人と家族、地域の健康問題と	情報活用基礎(○)	情報活用演習(○)	成人健康障害看護(③)	コミュニケーション皿A(O)				
_	数学基礎概論(○)	統計学(〇)	成人看護学概論(③)	コミュニケーションⅢB(O)				
マニフケンシュー レ手雑脚 チ	平和科目(〇)	自由選択科目	老年看護学概論(③)	コミュニケーション国C(〇)				
理 バグイン・イス・コミー 監報 目 間ならび 他職種との協働に関す	自由選択科目	医療従事者のための心理学(◎)	) 小児看護学概論(◎)					
			コミュニケーション皿A(O)					
			コミュニケーションⅢB(○)					
			コミュニケーション面C(〇)					
			平和科目(〇)					
看護倫理に関する知識・理解								
	基礎看護実習Ⅰ(◎)		看護技術学·基礎演習(◎)	看護技術学·応用演習(◎)	小児看護方法演習(◎)		地城看護学演習(◎)	
根拠に基づき、看護を計画的に  知 実践する能力の知識と理解			基礎看護実習[[③]	看護診断方法論演習(③)	精神看護方法演習(◎)			
おり、これによってはは、おと、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには				母性看護方法演習(◎)	老年看護方法演習(③)			
				基礎医学演習(◎)	成人看護方法演習·慢性期(③)			
世様の回復にかかわる実践能				環境生態学演習(△)	成人看護方法演習·急性期(③)			
					保健情報学演習(△)			
				基礎看護実習Ⅲ(◎)		母性看護学実習(⑤)	成人看護学実習(慢性期)(◎)	助産学実習(△)
<ul><li>★ 根拠に基づき、看護を計画的に は 実践する能力の展盟</li></ul>						小児看護学実習(③)	地域看護実習(◎)	
						精神看護学実習(⑤)	公衆衛生看護実習(△)	
カ 健康の保持増進、疾病の予防、・ 健康の回復にかかわる実践						老年看護学実習(⑤)		
						成人看護学実習(急性期)(③)		
E *利用者:看護実践の場におけ る看護サービスの利用者。黒						成人看護学実習(回復期・緩和ケア)(◎)		
1							総合実習(◎)	
生命・看護倫理に対する判断力							卒業研究(◎)	卒業研究(◎)
£ √□:								
-							総合実習(◎)	
能 力と態度 + カと態度								
7.								
<b>拉</b>							総合実習(◎)	
研究能力および自己教育力								
[()()	(例) 教養科目	車門基礎	車門科目	専門科目(公衆衛生·助産)卒業論文	) 卒業論文	(◎) 必修科目	(〇)選択必修科目	(△)選択科目

# 看護プログラム担当教員リスト

教員	員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
小林 书	敏生	教授	5345	健康開発科学	tkobaya@hiroshima-u.ac.jp
梯  』	E之	教授	5350	健康情報学	kakehashi@hiroshima-u.ac.jp
折山 早	·苗	教授	5355	基礎看護開発学	
大平	光子	教授	5360	助産•母性看護開発学	moohira@hiroshima-u.ac.jp
森山	美知子	教授	5365	成人看護開発学	morimich@ hiroshima-u.ac.jp
祖父江	育子	教授	5370	小児看護開発学	sobue@hiroshima-u.ac.jp
國生	拓子	教授	5375	精神保健看護開発学	kokusho@ hiroshima-u.ac.jp
片岡 化	建	教授	5380	成人健康学	katachan@ hiroshima-u.ac.jp
中谷	久恵	教授	5390	地域·在宅看護開発学	hinakata@hirosima-u.ac.jp
川﨑	裕美	教授	5395	地域·学校看護開発学	khiromi@ hiroshima-u.ac.jp
宮下	美香	教授	5385	老年・がん看護開発学	mikamiya@ hiroshima-u.ac.jp
藤井	宝恵	講師	5346	基礎看護開発学	tomie@ hiroshima-u.ac.jp
大坮	美樹	講師	5458	地域·在宅看護開発学	ooeki@hiroshima-u.ac.jp
藤本	紗央里	講師	5361	助産•母性看護開発学	fsaori@hiroshima-u.ac.jp
小澤	未緒	講師	5432	助産•母性看護開発学	ozawamio@hiroshima-u.ac.jp
二井谷	真由美	講師	5366	成人看護開発学	mniitani@hiroshima-u.ac.jp
竹中	和子	講師	5378	小児看護開発学	takewank@ hiroshima-u.ac.jp
梶原 弘	·本	助教	5445	老年・がん看護開発学	kkaji@hiroshima-u.ac.jp
舩場	友木	助教	5352	助産•母性看護開発学	funaba@hiroshima-u.ac.jp
田淵	啓二	助教	5356	健康開発科学	tabk2@hiroshima-u.ac.jp
新宮	美穂	助教	5347	基礎看護開発学	mshinguu@hiroshima-u.ac.jp
村上	真理	助教	5352	健康情報学	muromari@hiroshima-u.ac.jp
山崎	智子	助教	5397	地域·学校看護開発学	morisato@hiroshima-u.ac.jp
渡邊	多恵	助教	5382	成人健康学	watanabetae@hiroshima-u.ac.jp
金藤	亜希子	助教	5397	地域·在宅看護開発学	teccy@hiroshima-u.ac.jp
福島	紗世	特任助教	5352	助産・母性看護開発学	sfuku@hiroshima-u.ac.jp
栗栖	京子	特任助教	5347	地域·在宅看護開発学	kukuriku@hirosima-u.ac.jp

※「082-424-(内線番号4桁)とすれば、直通電話となります。

(霞:082-257-(内線番号4桁))

(東千田:082-542-(内線番号4桁))